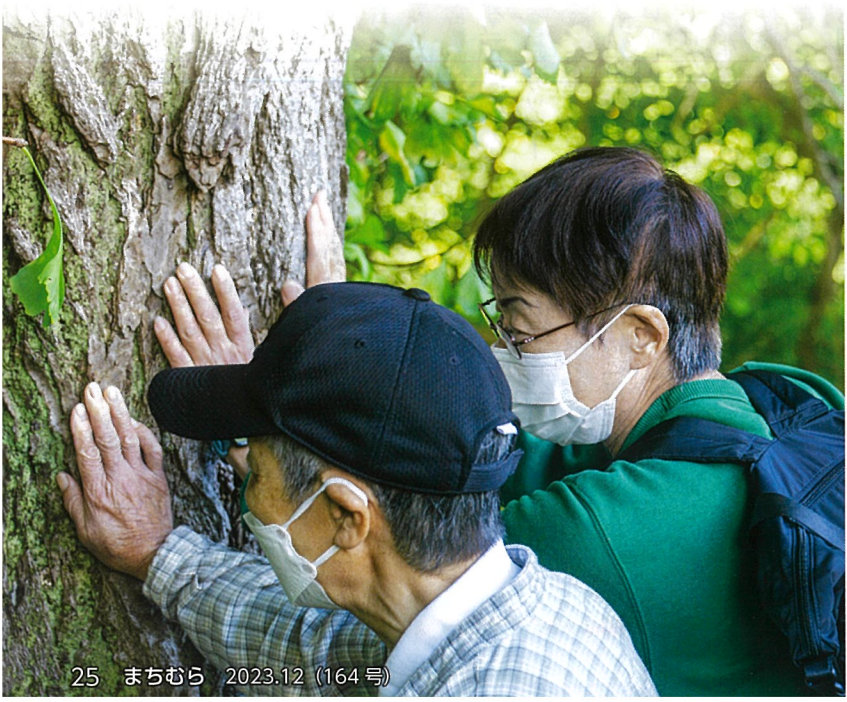




# 誰かの宝ものをみんなの宝ものに

宮城県柴田町 しばた100選活用チーム







東北本線を走る仙台行き普通列車は、白石川の堤防に続く桜並木に寄り添うように快走し、宮城県柴田町にある船岡駅に到着する。この桜並木は東北有数の桜の名所として名高い「一目千本桜」。東北を行き交う人々にとって、車窓のハイライトとして心に刻まれていたのだらうと思う。

船岡駅を降りると、小高い山に囲まれ清らかな水の流れるお堀がある街並みは城下町の面影を色濃く残している。「しばた郷土館」に入ると古くからの生活用品が詳しく展示され、この地に住む人が毎日の暮らしを丁寧に大切にしている様子が窺えた。

今回、宮城県柴田町において故郷の伝統や地域資源を守るために活動する「しばた100選活用チーム」(代表：豊川光雄さん)が主催する日帰りツアー「しばた100選を見てみよう!」(「まだまだあるぞ しばたの宝もの」コース)を取材した。

「しばた100選」は、代表の豊川さんの「歴史と文化を後世に引き継いでいきたい」という熱い想いから、「まちづくり提案制度」に「しばた100選」プロジェクトを提案し採択。町との協働により「あなたの地域の自慢を教えてください」と町民に募集し、855の応募から選定。平成28年3月に「しばた100選」として発表された。でも、冊子の制作だけでは忘れられてしまう。そこで、平成28年8月に「しばた100選活用チーム」を任意団体として立ち上げ、機運を盛り上げていくこととした。さらに、100選に漏れた中にも多くの宝物が埋もれていることから、令和2年10月に「まだまだあるぞしばたの宝物」を刊行した。今回はその場所を巡るツアーとなった。

朝9時から13時までの半日コース。メンバーが先導するサポートカーとマイクロバス1台で出発。「気になるものがあれば何でも尋ねてください」と豊川さん。途中で槻木地区からの参加者も乗せながら町を巡る。参加者には、可愛いイラストの「しおり」と、代表の豊川さんが作成した「限定資料特別版」が配られる。はじめに、町内最高峰の愛宕山の中腹にある雨乞集落を訪れる。

豊川さんのガイドに耳を傾ける。「雨乞のイチヨウ」は国の天然記念物に指定された、樹齢600年余り、樹高31m、樹周11mの巨樹。乳柱の発達が著しく、乳飲み子を抱えたような姿から安産子育ての信仰となっている。参加者一同にゆず湯が振舞われる。活用チームのメンバーで雨乞集落に住む加藤さんは、ユズの6次産業化を図り、展望台も自分で整備したそう。雨乞地区はユズの北限の地とされている。

その後、柴田町内で唯一の人や車が通れる「白山トンネル」を通り、「鬼田瓦窯跡地」へと向かう。住宅街の緑地に遊歩道を整備したところ、瓦や木炭などが出てきた。ここは昔、地下式穴窯の瓦窯跡であった。続いて立石緑地(太鼓山)は、船岡城址公園と白石川堤の一目千本桜が一望できる隠れた景勝地。古くは合戦の見張りの地でもあったという。その後、「社会福祉法人はらから福祉会」の施設前で停車し、障がい者が生計を維持し社会的な役割を担うことの大切さなど施設の意義について説明があった。

最後に立ち寄ったのは、柴田町まちづくり推進センター「ゆるぶら」。ここは、住民の情報収集や地域活動の相談業務など、町民同士の交流の場になっている。センター代表の佐藤さんからセンターの機能や役割について説明があり、「今日のツアーへ皆さんが参加したこともまちづくりの一環です」とエールが送られる。続けて教育委員会地域学校コーディネーターの松田さんからは、学校支援ボランティア「しばたつ子応援団」の紹介があり、何かしたいと思い実際に何ができるか、その橋渡しをしていることなど、活動への参加について呼び掛けがなされた。

プログラムの最後は、手作りの紙芝居「飯淵七三郎物語」を同会メンバーが実演。船岡の農業を育て白石川の堤に桜を植えた先人を紹介する。紙芝居は各小学校区の歴史や題材から六つの紙芝居をメンバーが作成している。脚本はメンバーの阿部さんが書き、紙芝居の貸し出しもする。様々な方面から実演の依頼もあるそう。





参加者からは「まちの歴史を深く知りたいと思って参加した。平野の田んぼから山上の雨乞まで稲を運んだ話が記憶に残っている」「兎田瓦窯跡地の存在を初めて知った。地元の新たな発見ができた」との声を聞くことができた。

ツアー終了後、「ゆる・ぶら」の会議室でメンバーにお話を伺った。今回のコース選定は特に雨乞集落を希望する声に応えたもの。山の中腹にある雨乞集落は自分で行くには少々難易度が高い。多くの町民の方に、実際に1か所でも訪れてほしい思いがある。

「ゆる・ぶら」での地域活動紹介は、ツアーに研修が組み込まれたユニークな企画だが「20人の参加者が集まった機会に柴田の様々な活動を紹介すれば、地域で何かできるきっかけがあるかもしれない。普段はこのような話を聞く機会がなかなかない」と豊川さんはその意義を語る。

「自分たちが楽しめない活動は続かない。しばた100選の会合はお互いに否定しないで話を聞いてくれる」とメンバーの渡辺さん。同会のメンバーは、文書作成、会計や庶務、紙芝居や学校関係の交渉、ツアーのガイドなどそれぞれの得意分野で力を発揮する。メンバーの三浦さんは下見の下見も自主的に回り、地域のお寺や神社へ事前の挨拶をする。「100選ツアーは地域の協力も大事。ツアーで訪れる地域の人のおもてなしが地域資源となっている」と話す。

同会の会合は代表の豊川さんを中心にも賑わいが絶えない。柴田町にあるたくさんの地域資源の一つに歴史があり、人々の思いがある。100選活用チームのメンバーは、既成の概念にとらわれず、何でもチャレンジする。活動を通じていろんな人に呼び掛ける。みんながその宝物を知ること、守られ、次世代へと引き継がれていくことを同会は願っている。

**【連絡先】**

しばた100選活用チーム(庶務・阿部)  
TEL:080-3323-4644  
メール:nakayoshiabe@ybb.ne.jp

